



CLOSE UP
ひとの＊ちから

石原 敬 さん 第18回あらお荒炎祭運営委員長

荒尾の夏といえば、「あらお荒炎祭」。今年で18回目を迎えます。

あらお荒炎祭は、市内の多くの団体や企業によって構成される実行委員会で開催イベントが決定されます。そのイベントを実際に動かしていくのが、あらお荒炎祭運営委員会です。

今年、この運営委員会委員長を務めるのが、石原敬さん。荒尾青年会議所(JC)の理事長です。JCとは、地域にすむ40歳未満の人ならだれでも参加できる、まちづくりの団体です。「父親が元JCの会員で、その勧めも

いしはら けい ● 1975年生まれ、宮内出目在住。石原商店勤務。ピーアールポイントは「愛妻家です!」とのこと。

あつて入会しました。進学や就職で長年荒尾を離れていましたから、地元で仕事をすることには正直少し不安があつたんです。でも、JCでいろんな人と触れあい、経験を積むことができ、不安は消えましたね」と語ります。

石原さんはこれまで、まつりクイーンコンテストの部会長を務めた経験があります。今年は、荒炎祭の催し全体をまとめる運営委員長という大役を務めます。「するからには、妥協したくないんです。全体を把握して、万全の態勢で臨みたいですね」



1. 7月13日(水)に行われたあらお荒炎祭運営委員会。荒炎祭まで1カ月を切り、会議に熱がこもります。
2. 3月19日(土)、20日(日)には、JC熊本ブロック協議会の呼びかけで、県内13のJCが救援物資活動を行いました。荒尾JCの活動でも、急な呼びかけにもかかわらず、市民の皆さんの協力で多くの物資が集まりました。

理事長や委員長というのは、なかなかさせてもらえる役職ではないですからね、と真剣な表情を見せる石原さん。JCも入会9年目、理事長を勧められたとき、ぜひ経験してみたいと思い、立候補しました。それも「今というタイミングと、家族と会社の理解があつてこそ」といいます。家業の酒店に勤務しながら、仕事の合間を縫って荒炎祭の準備に走り回る毎日です。「運営委員長は、荒炎祭の広告塔でありたい」という気概そのままの仕事ぶりです。荒炎祭により多くの人に参加してもらい、喜んでもらうことが、荒尾を元気にするために必要だからだといいます。

石原さんに今回の荒炎祭の見どころを聞きました。すると笑顔で「全部です」とのこと。各部会に顔を出し、スタッフがが一丸となって頑張っている姿を見てい

る石原さんらしい答えです。

「二人一人は微力だが、無力ではない」石原さんがJCメンバーにいつも話す言葉です。小さな力が集まり大きな力になる、そしてまちがよりよくなる一人の力でますます元気になっていく荒尾の姿を、石原さんははつきりと心に思い描いています。その思いから生まれる行動が、荒炎祭を作り上げる重要なエネルギーの一つとなり、祭りを引っ張ります。

荒炎祭のテーマは「四つの炎」。4つ目に数えられているのは「人の情熱の炎」です。荒尾が生んだ偉人・宮崎兄弟を象徴していますが、「情熱の炎」は、石原さんの中に確かに息づいています。

よりよい荒尾を目指すはつらつとしたエネルギーが、この夏の荒炎祭をいっそう熱く面白くします。今年の荒炎祭、どうぞご期待ください。